

農村地域防災減災事業

～ 蛭沢ため池の改修事例 ～



➤ 事業の経緯

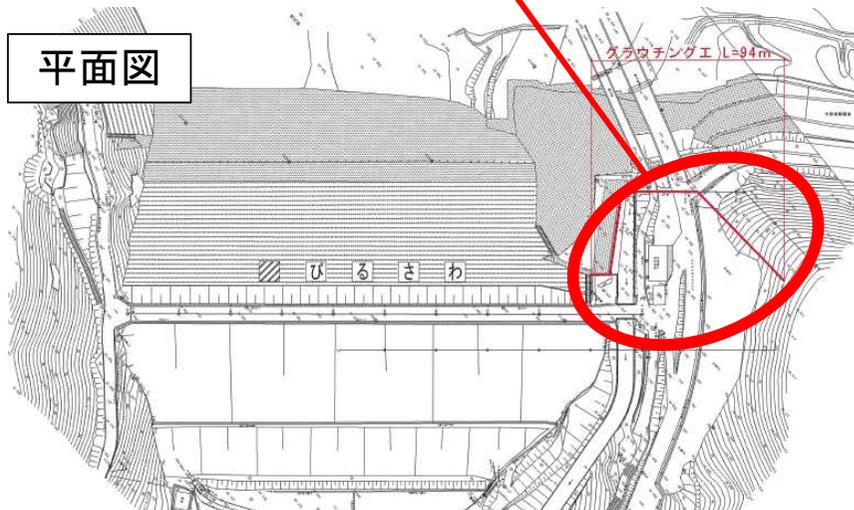
- 平成20年の地震点検で堤体法尻から漏水が確認されたため、調査したところ堤体左岸部からの漏水が推測された。
- 安全性を確保するため平成26年度から農村地域防災減災事業（ため池整備）で対策工事を行っている。
- カーテングラウト工法で漏水を防止し、令和2年度からは貯水率100%で運用している。

➤ 蛭沢ため池の諸元

堤高	23.5m
堤長	190.0m

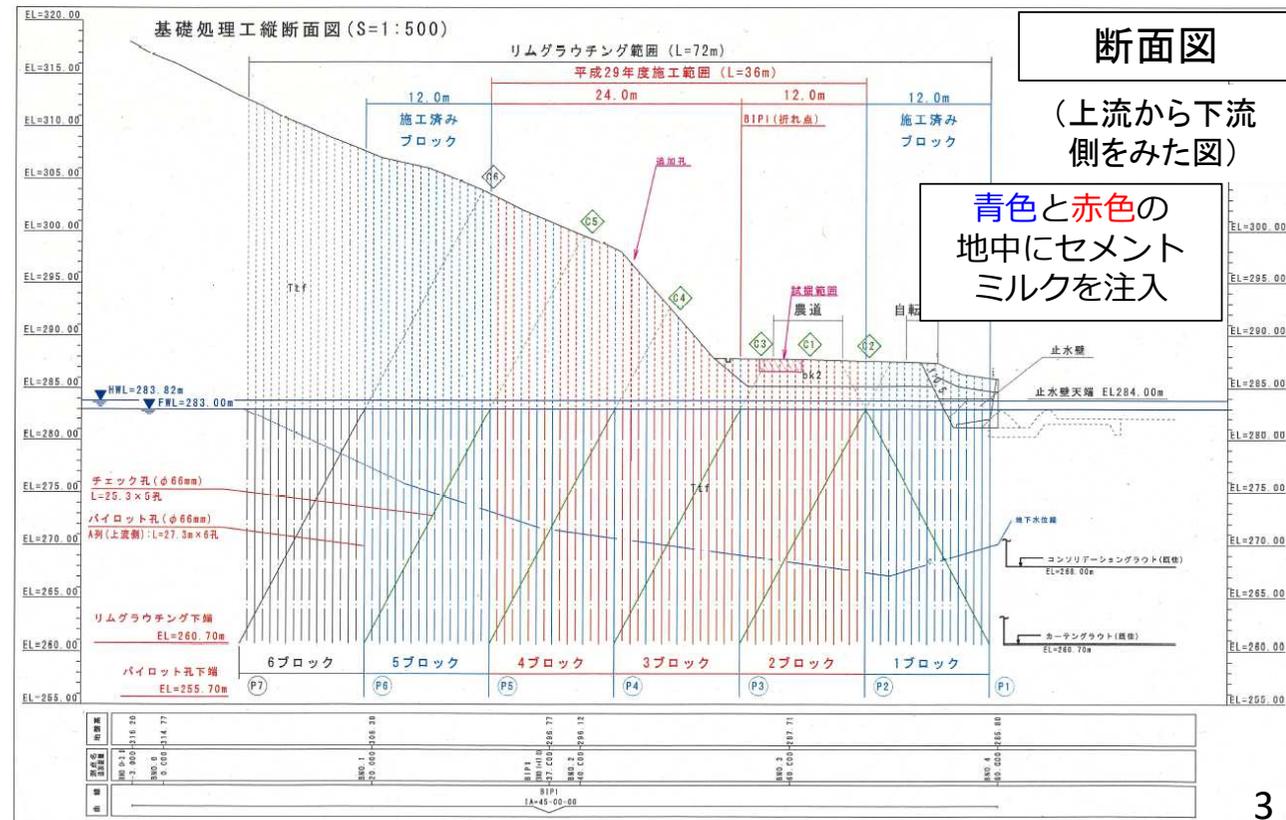
貯水量	2,075千m ³
受益農地	1,051ha

➤ 漏水箇所を特定



➤ 対策工法を決定

漏水原因の地中の亀裂を埋めるセメントミルクを注入（カーテングラウト工法）



➤ 工事の実施状況

① 注入孔の削孔



② パッカーセット



③ 透水試験



④ セメントミルク注入



⑤ グラウト孔充填



➤ 事業の効果

- 平成30年までは安全確保のため満水にせず低い水位を維持
- 令和元年から満水にして農業用水を安定供給

- 令和2年7月末の豪雨時には、上流域の雨水をため池で受け止め、下流域の被害を軽減

